



けんせつサポート

けんサポ Center News 第60号 2026年9月



Contents

●土木の現場を身近に体験	P 1	●特集 建設業の魅力	P 3
●未来の建設業を担う若者	P 2	○お知らせ	
●センターを担う若者たち	P 2	・研修のご案内（10月～）	P 4
		・セミナーのご案内	P 4

多くの業種・業界では人材不足が大きな課題となっています。建設業も同様に担い手不足という大きな壁に直面しています。この課題を乗り越え、安全で快適な社会基盤を維持するためには、次世代を担う若い力や多様な人材の確保が不可欠です。建設業に人が集まらない背景の一つには、建設業に対するネガティブなイメージ（旧来の「3K」というイメージ）が、いまだあると言われています。しかし、建設業界は大きな変革の時代を迎えており、ICTやデジタル技術の導入による「生産性の向上」、休日拡大や残業削減といった「働き方改革」の推進により、誰もが安心して長く活躍できる、魅力的でスマートな職場環境への進化が始まっています。

岐阜県建設研究センターでは建設業へのイメージアップや魅力向上のため、そして建設業の担い手不足を解消するため、将来の担い手になり得る若者を対象に様々な取組を実施しています。その中でも、今回は次の事業を紹介します。

- ①「親子の土木見学バスツアー」
- ②「建設ICT体験学習」
- ③「建設関連企業と学生との交流サロン」

●土木の現場を身近に体験

（窓口）建設ICT人材育成センター
0584-71-7001

◆親子の土木見学バスツアー◆

未来を担う子どもたちに建設業の役割や魅力を伝えるため、小中学生を対象にツアーを開催し建設現場を間近で体感します。

令和7年度は、リニア中央新幹線岐阜県駅（仮称）や濃飛横断自動車道の建設現場などを親子で巡り土木事業の重要性などについて学び、参加した子どもたちからは「実際の現場見学までできて分かりやすかった」「日常では見る、体験する事のない内容で良かった」などといった声が寄せられました。



濃飛横断自動車道建設現場見学(R7年度)

◆建設ICT体験学習◆

中学生を対象とした「建設ICT体験学習」では、近年の建設工事ではドローン等の最先端のICT技術が使われていることを学ぶとともに、実際にドローン操作を体験し、建設産業に対する理解を深めるとともに、建設業の魅力ややりがいを学びました。令和7年度は15校で開催し1,202名の生徒に参加していただきました。



ドローン操作の様子
- (R7年度)

●未来の建設業を担う若者

◆建設関連企業と学生との交流サロン◆

岐阜県建設研究センターは、「未来の建設業を担う若者たちへ」向けて、業界への理解を深め、就職への不安を解消するための支援事業を強力に推進しています。

その中核となる「建設関連企業と学生の交流サロン」事業では、地元の建設企業で働く技術者が工業高校や農業高校を訪問し、生徒と直接対話する場を提供しています。生徒が抱く疑問に対し、現在の建設業界のリアルな姿を伝えています。さらに、最先端のICT技術を体験する学習機会も提供しています。

この交流を通じて、多くの生徒が「3K」の古いイメージを払拭し、地元でモノづくりに携わる「やりがい」を再発見し、また、最新技術に触れ、建設業が単なる肉体労働ではなくクリエイティブな職業へと進化していると感じていただきました。

企業の方と生徒との意見交換(R7年度)

休みはありますか？
忙しくないですか？

週休二日制で土日は休みです。残業することも、ありません。

女性社員は少ないですか？

確かに、女性社員数はまだ少ないですが、現場でも女性用のトイレや更衣室が整備されるなど、働きやすい職場です。

建設業は、上下関係が厳しそう。

命に係わる仕事なので、厳しい指導はありますが、皆優しい人ばかりで、人間関係もとても良いです。

この仕事に就いてよかったことは何ですか？

自分の仕事が形として残ることにやりがいを感じています。

ぎふ建設人材育成・確保連携協議会（当センターも構成員）では建設産業の魅力や役割をYouTube動画で紹介しています。ぜひご覧ください。



●センターを担う若者たち

当センターに技術職として採用された若手職員2名に、入社後の成長や日々の仕事のやりがい、今後の目標などについて尋ねました。（Aさん：技術部技師 20代、Bさん：技術部技師 20代）

Q今はどのような業務をしていますか？

- ・工事費を算出する積算業務を行っています。（Aさん、Bさん）

Q入社後、一番成長したと思うことは？

- ・入社時と比べて、難しい積算もできるようになったことです。（Aさん）
- ・知識も増え、自分の力でわからないことを解決し業務を進めることができるようになってきました。（Bさん）

Qこの仕事のやり甲斐・魅力は何ですか？

- ・自分が現場監理を担当した完成後の競技場で、生徒たちが練習している姿を見たときやり甲斐を感じました。（Aさん）
- ・自分が積算を担当した現場が完成し、実際に多くの人々の暮らしに役立っていると感じたときはやり甲斐と達成感がありました。（Bさん）

Q伸ばしたいスキルや今後の目標は何ですか？

- ・上司への質問を減らし、一人で設計書を完成できるようにすることです。（Aさん）
- ・これからさらに道路改良や河川などの積算業務の経験を積み、知識を増やしていきたいと思っています。さらに今年は技術士1次試験にも挑戦するので合格することが今の一番の目標です。（Bさん）

Qこれから入社してくる後輩へアドバイスを

- ・同世代の職員も多く、明るい雰囲気の中で楽しく仕事ができています。入社して良かったと思っています。ぜひ一緒に働きましょう！（Aさん）
- ・学ぶことは尽きませんが、その分日々自分がレベルアップしている実感が湧く、やり甲斐のある素敵なお仕事です。一緒に地域のインフラを支えていきましょう！（Bさん）

●特集 建設業の魅力

1 建設業の現状と課題

人が歩き、車が走る道路。災害から街を守る堤防や防波堤。張り巡らされた上下水道網。そして駅や公共施設などの建物。これら社会基盤を整備し、守り続けているのが「建設業」です。

しかし今、建設業界は大きな課題に直面しています。その最たるものが「深刻な人手不足」と「就業者の高齢化」です。現在、建設業の就業者のうち、60歳以上が占める割合は他産業と比べても非常に高く、あと10年もすれば数多くの熟練技術者が一斉に引退の時期を迎えます。一方で、次代を担う若年層の入職者は減少傾向にあります。

この状況を放置すれば、高度経済成長期に集中的に整備された橋やトンネルなどのインフラの老朽化対策や、近年激甚化・頻発化する大規模自然災害への対応といった社会的な要請に応えられなくなります。建設業の担い手不足は、単なる一産業の課題ではなく、日本という国の安全保障や持続可能性を揺るがす、まさに待たなしの危機的状況にあるのです。

2 イメージ転換への取組

建設業界に対するイメージはどうでしょうか。「きつい、危険、汚い」という昔ながらの印象を抱いている人も少なくないでしょう。ですが、今の建設業はまさに「大変革の真っただ中」にあります。

業界が目指しているのは、従来の「3K」から、「新3K（給与・休暇・希望）」への転換です。まず労働環境の面では、働き方改革関連法の適用に伴い、時間外労働の上限規制が厳格化され、業界全体で「週休2日制」の定着に向けた強力な推進が行われています。適正な工期設定や、元請け・下請け間の適正な取引関係の構築により、労働者がしっかりと心身を休め、家族との時間やプライベートを大切にできる環境づくりが急速に進められています。

さらに、建設現場の風景を劇的に変えつつあるのが「ICT（情報通信技術）」の全面的な導入です。「i-Construction（アイ・コンストラクション）」と呼ばれる取組により、現場のデジタル

化が一気に加速しました。例えば、ドローンを用いた高精度な3次元測量、設計データの3Dモデル化（BIM/CIM）、そして衛星データを受信して自動制御で動くICT建機の導入などが挙げられます。これにより、かつては職人の長年の勘や体力に頼っていた危険を伴う作業が、安全で高精度なデジタル制御へと置き換わりつつあります。

また、多様な人材が活躍できる現場づくりも進んでいます。女性技術者・技能者の増加に伴い、現場に清潔で快適な水洗の仮設トイレや更衣室、パウダールームが完備されるなど、年齢や性別を問わず誰もが働きやすいクリーンな職場環境へと劇的な進化を遂げています。



3 誇りと魅力

建設業の最大の魅力は、自らの仕事が「地図に載り、後世に残る」というモノづくりの醍醐味にあります。自分が関わった構造物が完成し、人々の生活を支え街の景色を形作る喜びは、他では味わえない大きな誇りとなります。

そして何より、建設業は「地域の守り手」としての重要な役割を担っています。地震や豪雨などの自然災害が発生した際、真っ先に現場へ駆けつけ、道路の啓開作業や応急復旧を担うのは地域に根ざした建設企業です。人々の命と暮らしを陰で支える「地域危機管理産業」としての貢献度は極めて高く、若い世代にとっても非常にやりがいのある社会貢献と言えるのではないのでしょうか。

これまでの古いイメージにとらわれず、最新テクノロジーと自らの手で街の未来をデザインする——そんなダイナミックな挑戦ができる場所が、今の建設業です。

○お知らせ 研修のご案内（10月～）

（窓口）建設ICT人材育成センター
0584-71-7001



県・市町村等職員の方へ

（研修QR）

開催日	研修名	内容	場所	定員
10月1日	測量	測量の講義、現地実習	岐阜県福祉・農業会館(岐阜市)	30
10月16日	ドローン操作	ドローンに関する法令の講義、操作実習	ドローンミュージアム&パークみの(美濃市)	24
10月16日	水中ドローン操作	水中ドローンに関する操作実習	ドローンミュージアム&パークみの(美濃市)	24
10月30日	橋梁点検	橋梁点検の講義、現地実習	建設ICT人材育成センター	24
11月6日	現地見学会(都市計画事業)	都市計画事業の先進事例の見学	せきてらす(関市)	30

建設業者の方へ

開催日	研修名	内容	場所	定員
未定	建設ICTマネジメント研修	伴走支援型建設ICT活用研修(岐阜)	県内施工現場	10
未定	建設ICTマネジメント研修	伴走支援型建設ICT活用研修(西濃)	県内施工現場	10
未定	建設ICTマネジメント研修	伴走支援型建設ICT活用研修(中濃)	県内施工現場	10
未定	建設ICTマネジメント研修	伴走支援型建設ICT活用研修(飛騨)	県内施工現場	10
未定	経営力向上セミナー	バックオフィスを活用した働いてもらい方改革(導入)	ライブ配信	40
未定	経営力向上セミナー	バックオフィスを活用した働いてもらい方改革(推進)	ライブ配信	40

一般の方へ

開催日	研修名	内容	場所	定員
11月3日	小中学生の親子土木見学ツアー	土木工事の建設現場を見学	昭和コンクリート(株)揖斐川工場	40

研修の概要等は、センターホームページの研修・セミナー案内（上記QRコード）をご覧ください。

○お知らせ セミナーのご案内

（窓口）ふるさと地理情報センター
0584-81-1357

G空間セミナー2026 in GIFU

G空間データで挑む行政DX ～コストを抑え、効果を最大化する地図の底力～

開催日時 10月15日(木) 13:30～15:30 **参加無料・先着100名・オンライン配信のみ**

参加対象 ・地理空間情報を業務で活用したい自治体、行政職員の方
・地理空間情報の利活用に興味のある企業、市民、学生の方

主 催 岐阜県、(公財)岐阜県建設研究センター

申込方法 右側QRコードを読み込み Teams 登録フォームから申し込めます



基調講演 中部大学 中部高等学術研究所 所長 教授 ^{ふくいひろみち} 福井弘道 氏
「AI+GIS（ジオAI）とデジタルアースで加速するDX」

事例発表 ①関市登山デジタルスタンプラリー（デジスタ9）の取組み（関市協働推進部 洞戸事務所）
②杉並区のGISの特徴と独自地図の活用事例（東京都杉並区 都市整備部）
③もっと使おう県域統合型GIS 地番図編（(公財)岐阜県建設研究センター）

○編集後記

今回の「けんサポ」では建設業の魅力について取り上げました。建設業の様々な課題、特に「人材」に関する課題に対処するためには「魅力」の発信は欠かせません。魅力向上は、民間企業への入社のみならず、地方自治体の技術職員の採用にも大きく影響を与えます。

先日、滋賀県建設技術センターさんにお邪魔しましたが、こちらでは、「インフラDXブース」を設置するなど、児童・生徒から民間企業・行政まで幅広く魅力発信に強力に取り組んでおられると強く感じました。

当センターでも、今回のけんサポでも触れましたが親

子バスツアーや各種研修を通して魅力向上・発信に努めており、今後も継続して実施することの重要性を感じています

先般、写真家の山崎エリナさんの講演を拝聴しました。山崎さんは、建設現場で働く人に魅せられ、建設業の魅力を、レンズを通して発信し続けてみえます。

魅力の発信方法は多様です。当センターも固定観念にとらわれない柔軟なアプローチで建設業の魅力を伝え、次世代へバトンを繋ぐ架け橋となれるよう、今後も精力的に取り組を進めてまいります。

編集・発行 公益財団法人 岐阜県建設研究センター 企画部

TEL 0584-81-1332 FAX 0584-81-1352 <https://www.gifu.crcr.or.jp>

